[シンポジウム 4]

栃木（縣）医学校の推移

日野原　正
獨協医科大学名誉教授

明治 4（1871）年に栃木県が誕生した．初代県令・鍋島　幹は医療行政に意を注ぎ，翌年栃木町に栃木病院（仮）を設け，院長に山口県士族の松岡勇記を招聘・任命した．

松岡勇記は天保 5（1834）年，江戸芝で生まれ，17 歳で松岡良哉（萩藩医）の養子となり，20 歳で豊後国日田に赴き，廣瀬淡窓の感宜園で儒学を，23 歳で大阪に出て緒方洪庵の適塾に入って蘭学・西洋医学を学んだ．

松岡は明治 7（1874）年，茨城医学校長として転出のため依願免職するまで，栃木病院の草創期に尽力した．とくに仮病院が手狭なため新築伺いを出したり，「医学校開設の建言書」を提出するなど，医学の研究と地域医療を統合する「医学校　兼　病院」の構想実現に努力した．

〈付記　明治 10 年代の推移〉

明治 11 年 4 月	栃木病院附属医学所を「栃木医学校」と称し，大家森重が校長兼病院長となる． 所在地：栃木町（通称，七軒町－現万町 4 丁目）
同年 6 月	三浦省軒が校長となり，教則を改訂する．
明治 12 年：	「栃木医学校」と改称．
明治 13 年 3 月 27 日	栃木県医学校火災により焼失する． 栃木県議会が医学校の廃止を決議する．
明治 16 年：	栃木県医学校が廃校となる．

本シンポジウムにては，最近に至るまでの知見について口述する．